2026年11月20日

各　位

会社名　株式会社カーリット
（URL：https://www.carlit.co.jp）
代表者名　代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文
（コード番号 4275　東証プライム）
問合せ先　経営企画部 広報・IR推進室長　山本 孟
（TEL：03-6893-7060）

2027年3月期第2四半期(中間期)決算説明会資料（QA追記版）の公開および動画配信のお知らせ

当社の2027年3月期第2四半期(中間期)決算説明会動画を配信いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

2027年3月期第2四半期(中間期)決算説明会を11月16日、機関投資家・証券アナリスト向けにライブ配信にて開催いたしました。フェアディスクロージャーの観点から、同説明会を動画配信サイトにてオンデマンド配信いたします。

説明内容と発表者は以下のとおりです。

1．カーリットの現在地について	P4～	代表取締役兼社長執行役員	金子 洋文
2．2027年3月期第2四半期 決算概要	P10～	取締役兼常務執行役員（財務部担当）	岡本 英夫
3．宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み	P16～	代表取締役兼社長執行役員	金子 洋文
4．質疑応答	P25～	・代表取締役兼社長執行役員	金子 洋文
		・取締役兼常務執行役員（財務部担当）	岡本 英夫
		・取締役兼執行役員（生産本部担当）	高橋 茂信
		・取締役兼執行役員（ﾎﾞﾄﾘﾝｸﾞSeg担当）	中津 隆一
		・執行役員（営業本部担当）	小石 裕一
		・執行役員（経営企画部担当）	後藤　彰
		・研究開発本部本部長（理事）	相澤　恭

以下のURLよりご視聴のほどお願いいたします。
【PRONEXUS STREAM】https://p-stream.pronexus.co.jp/?viewer=db68b8eb-35f3-4ffe-a6ee-daa9989e9591
【公式YouTube】　https://youtu.be/LopuQvzTH-Y

以　上



2027年３月期第２四半期（中間期） 決算説明会

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

株式会社カーリット

CODE : 4275

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

目次

- カーリットの現在地について

  代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文

- 2027年３月期第２四半期 決算概要

  取締役兼常務執行役員　　岡本 英夫

- 宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

  代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文

- 質疑応答

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

カーリットの現在地について

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

カーリットの過去と現在

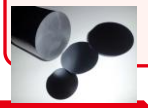
信頼と限りなき挑戦
Carlit











第一次世界大戦の終結	第二次世界大戦	高度経済成長期	バブル経済と崩壊	ITバブル期	リーマンショック
1918	1939	1945	1955	1973	1990	2000	2008	2030
カーリット爆薬の特許取得、製造販売開始		ロケット固体推進薬原料として過塩素酸アンモニウムの製造・販売開始	自動車用緊急保安炎筒の製造・販売開始	電子材料事業のスタート	シリコンウェーハ事業、ボトリング事業のスタート		M&Aにより4社以上を買収。ホールディングス体制を整え持株会社「カーリット」へ	

黎明期

塩素酸ナトリウムの派生製品や火薬・爆薬で、大戦前後の経済成長を支える

成長期

過塩素酸アンモニウムや自動車用発炎筒、電極や電解装置など、事業領域や販売市場が広がっていく

拡大期①

無機化学・火薬関連製品から、有機合成による電子材料分野、シリコンウェーハ事業、ボトリング事業を新規にスタート。事業規模と売上を拡大していく

拡大期②

さらなる事業規模と売上高の拡大を狙い、積極的なM&Aを実施。金属加工やエンジニアリングサービス関連の会社を買収し、4セグメント経営に転換

祖業「カーリット爆薬」から派生した価値創造

祖業にこだわらず、さまざまな資本を活かした価値創造

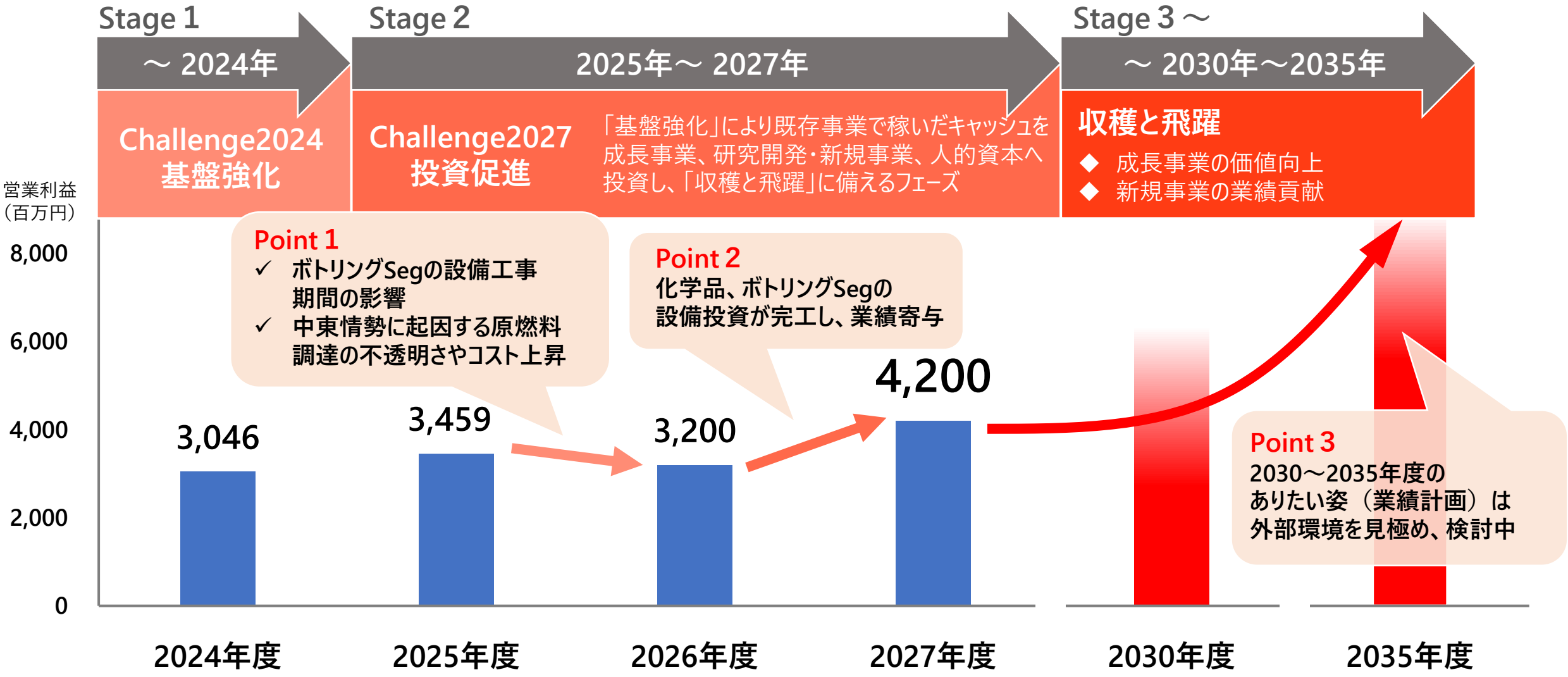
現在は、固体推進薬がテーマ

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

成長ビジョンと進捗（5月発表資料）

信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ 2035年に向けた成長ビジョンと中期経営計画Challenge2027の進捗



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

2027年３月期第２四半期 決算概要

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結経営成績

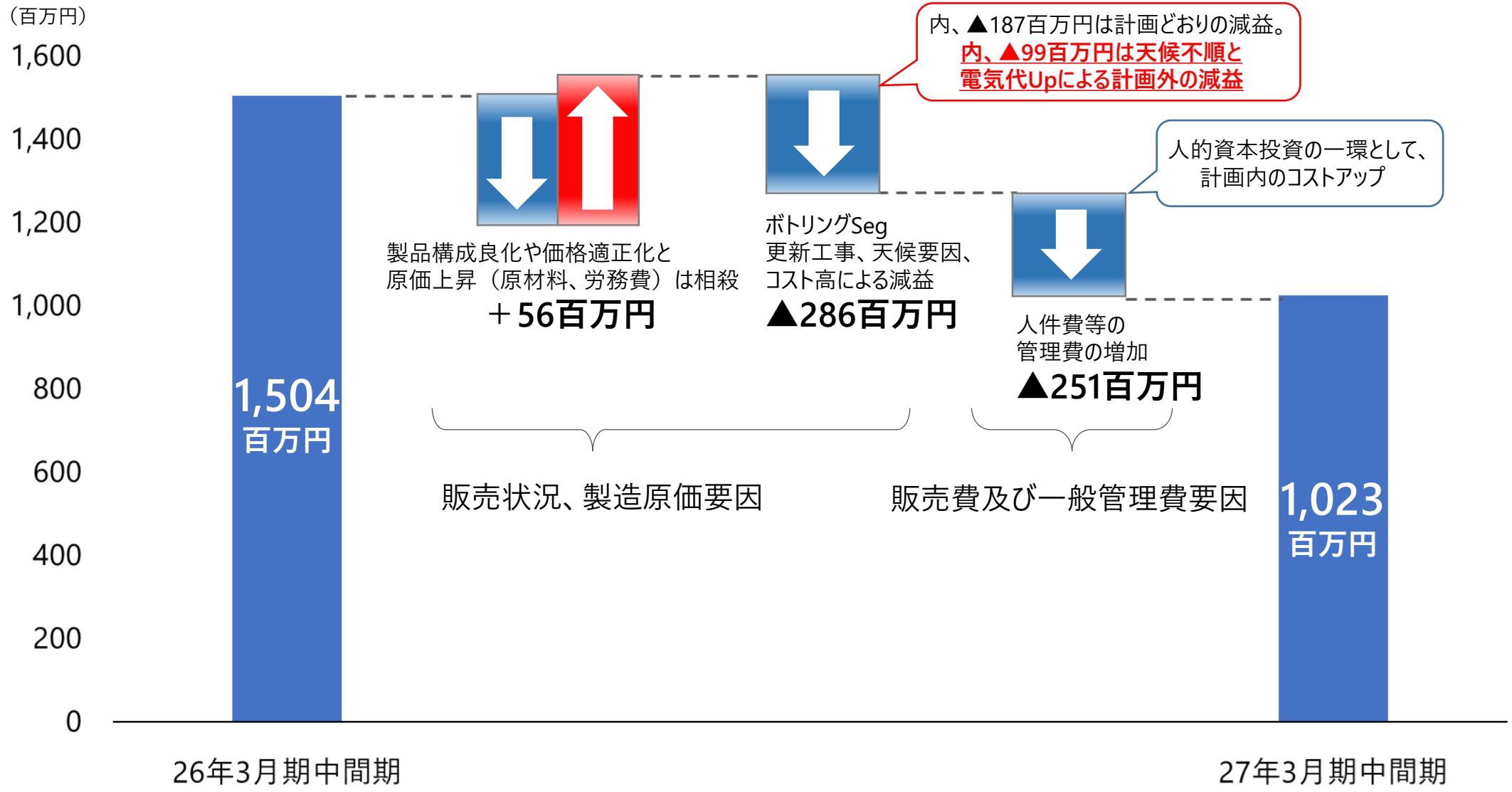
信頼と限りなき挑戦 Carlit

（百万円）	2026年3月期中間期 実　績	**2027年3月期中間期 実　績**	増減額	増減率
売上高	**17,763**	**17,452**	**▲311**	**▲1.8%**
売上原価	13,304	13,222	▲81	▲0.6%
売上総利益	**4,459**	**4,229**	**▲230**	**▲5.2%**
販売費および一般管理費	2,954	3,205	+250	+8.5%
営業利益	**1,504**	**1,023**	**▲480**	**▲32.0%**
経常利益	**1,657**	**1,145**	**▲512**	**▲30.9%**
親会社株主に帰属する純利益	**1,149**	**1,566**	**+417**	**+36.3%**
期末配当予想（円/株）	42	42		

特別利益	**投資有価証券売却益**	**1,140百万円**
	関係会社株式売却益	88百万円
特別損失	固定資産除却損	16百万円

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結営業利益 対前年増減内訳



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

セグメント別 決算概要

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

（百万円）	中間期売上高			中間期営業利益		
	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率
化学品	11,049	＋3.5%	46.0%	651	▲24.8%	31.0%
ボトリング	1,465	▲31.0%	40.7%	▲359	（▲286） 対前期比数値	（▲99） 対計画比数値
金属加工	3,738	▲0.9%	50.5%	335	▲10.1%	54.0%
エンジニアリングS	1,856	▲27.4%	32.0%	334	▲27.2%	51.4%
報告事業部門計	18,110	▲5.3%	44.4%	963	▲40.8%	28.6%
連結合計	17,452	▲1.8%	46.9%	1,023	▲32.0%	32.0%

化学品Segは計画どおり増収。
生産コストについては販売で相殺できているものの、販管費の増加を吸収できていない状況。適正価格交渉等の取り組みによる改善を継続。

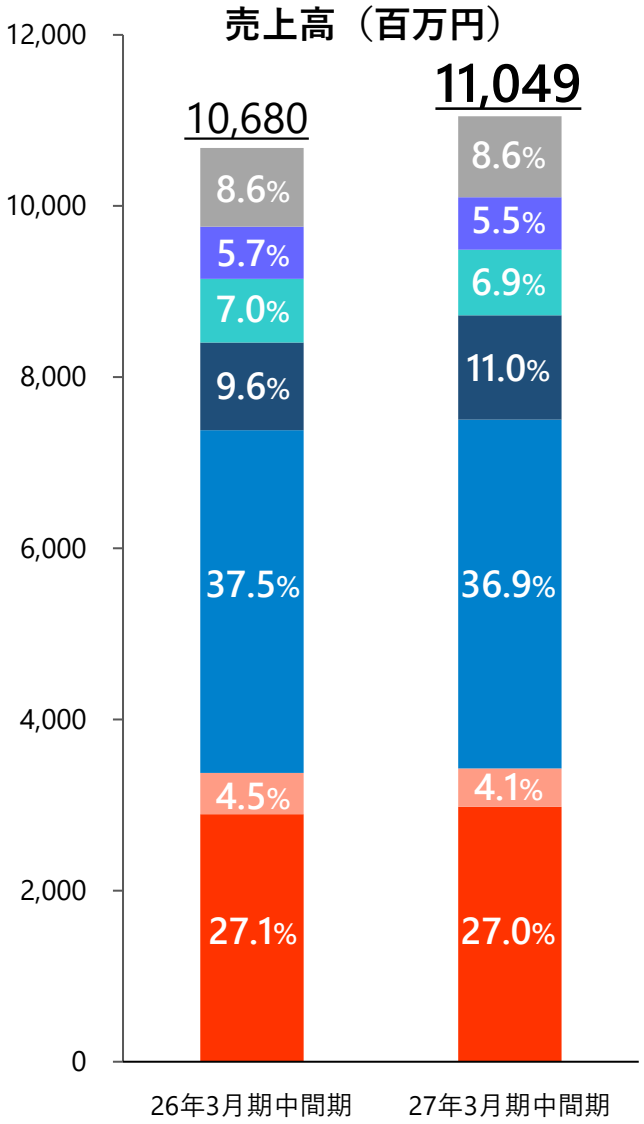
4月~12月にかけて更新工事を実施中。4月の定修コストに加え、製造ラインが１ライン停止する影響により減収減益。
計画外の要因として、日照不足や降雨が続き飲料需要が低調。エネルギーコストの増加が重なり、計画対比で営利99百万円の未達。

金属加工Seg、エンジニアリングSSegは概ね計画どおり進行。
1Qと比べ減速するも、販売動向は下期以降も堅調と想定。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

化学品セグメント 分野別（サブセグメント）の状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit



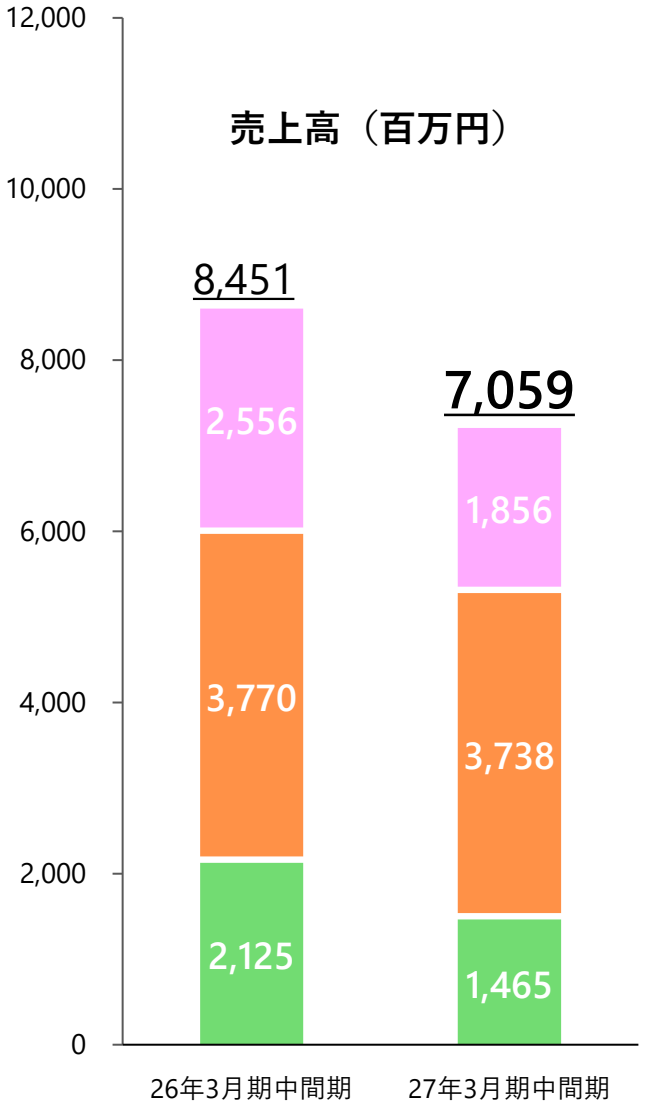
分野（サブセグメント）	売上高 増減率（前年同期比）	サブセグメント別の状況
化薬分野	＋3%	自動車用発炎筒　：自動車工場と販売店（車検）向けのどちらも販売が堅調に推移し増収。 しかし、原材料費や人件費などの生産コストの増加により減益。 高速道路用発炎筒：前年度の適正価格反映の効果に加え、事故防止や交通整理に関する需要が堅調に推移したことから、増収増益。
受託評価分野	▲7%	危険性評価試験：化学品類の危険性評価試験や大型の特別試験の受注を確保し、増収増益。 電池試験　　：EV需要の減速および一部顧客の調整の影響を受け、試験受注が減少。 加えて、設備投資の償却コストの増加により、減収減益。
化成品分野	＋2%	塩素酸ナトリウム　　：顧客の紙パルプ工場の被災により一部地域で需要が減少。 他地域向けの販売を推進するも、影響を補い切れず減収減益。 過塩素酸アンモニウム：宇宙開発用途および防衛用途需要の両方が堅調に推移。 計画どおりの販売推移となり、増収増益。
電子材料分野	＋19%	中東情勢の緊迫化にともなう石化由来原料の目詰まりにより販売損失が発生。 一方、ハイエンドサーバー向け高付加価値コンデンサ材料の販売が引き続き好調であったことに加え、電力変換機用コンデンサ材料の海外需要等が伸長したことから、増収増益。
セラミック材料分野	＋3%	金属加工用途の研削砥粒の需要が堅調に推移し増収。 原材料および生産コストの価格反映は進んでいる一方、管理コストの増加により減益。
シリコンウェーハ分野	±0%	一部顧客の需要が回復傾向にあり、第２四半期の販売は好調に推移。その結果、第１四半期の販売減少分を補い、売上高は前期比横ばい。 また、生産体制の見直しや販売価格の適正化により売上総利益が改善し、増益。

（不動産・その他）

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

基盤領域セグメントの状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit



セグメント	売上高 増減率（前年同期比）	セグメント別の状況
ボトリングセグメント	▲31%	保有する３つの飲料製造ラインのうち、「ホットパックライン」の更新工事を実施中。製造ラインの１つが停止しており、減収減益。更新工事期間は第１四半期から第３四半期までとなり、ライン更新による業績影響は計画どおりに推移。 一方、8月~9月は、台風等による低温・日照不足・降雨が続き飲料需要が低調。稼働可能な製造ラインの受注・生産も計画を下回る状況。エネルギーコスト高も計画を超えており、大きく減益。
金属加工セグメント	▲1%	耐熱炉内用金物　：堅調な交換需要を背景に、いずれも計画を上回って推移。 一方、前年同期の大型工事案件の反動の影響が大きく、減収減益。 各種金属スプリングおよびプレス品：建設機械向けの金属プレス品（座金など）の需要が増えている一方、自動車向けばね座金の販売が減少傾向となり、減収減益。
エンジニアリングサービスセグメント	▲27%	建築・設備工事　：グループ内工事案件および外部受注案件がどちらも減少し、減収減益。 2026年6月末の連結子会社売却の影響を受けているが、連結業績としては影響は軽微。 塗料販売・塗装業務：中東情勢の緊迫化に起因し塗料価格が上昇する一方、塗料製品の安定供給に努め販売が増加。 加えて、塗装業務も新規案件を取り込むことにより、増収増益。 構造設計　：下水道施設の耐震診断や補強設計を中心に需要が堅調に推移し、売上高横ばい、増益。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

計画対比の状況

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

◆ 通期業績予想は期初予想を維持。2Q営業利益は予想を下回ったが、下半期で改善を図る。

	（百万円）	2027年3月期 期初業績予想	2027年3月期 2Q時点 業績進捗	増 減 額	増 減 率
売 上 高	第 2 四半期	17,300	17,452	＋152	＋0.9%
	通　　期	37,200	37,200	-	-
営業利益	第 2 四半期	1,100	1,023	▲77	▲7%
	通　　期	3,200	3,200	-	-
経常利益	第 2 四半期	1,200	1,145	▲55	▲4.6%
	通　　期	3,300	3,300	-	-
純 利 益	第 2 四半期	1,400	1,566	＋166	＋11.9%
	通　　期	3,000	3,000	-	-
期末配当	1 株 当 た り	42円	42円	±0	-

計画比の主な減益要因は、ボトリングSegにおける天候不順と電気代Up。▲99百万円の影響

・・・ 注）次の①②の影響により、期初から前期比減益となる予想としています。

① ボトリングセグメントのPET飲料製造ラインの更新工事により、製造ラインが１ライン停止している影響

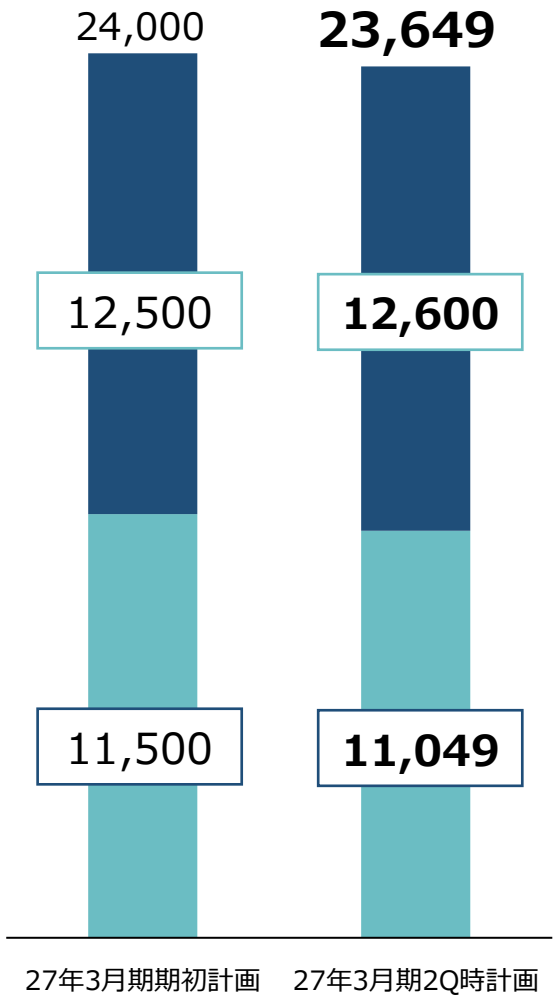
② 国際情勢の緊迫化にともなう化学品セグメントの原燃料高騰

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

下期見通し　＜化学品セグメント＞

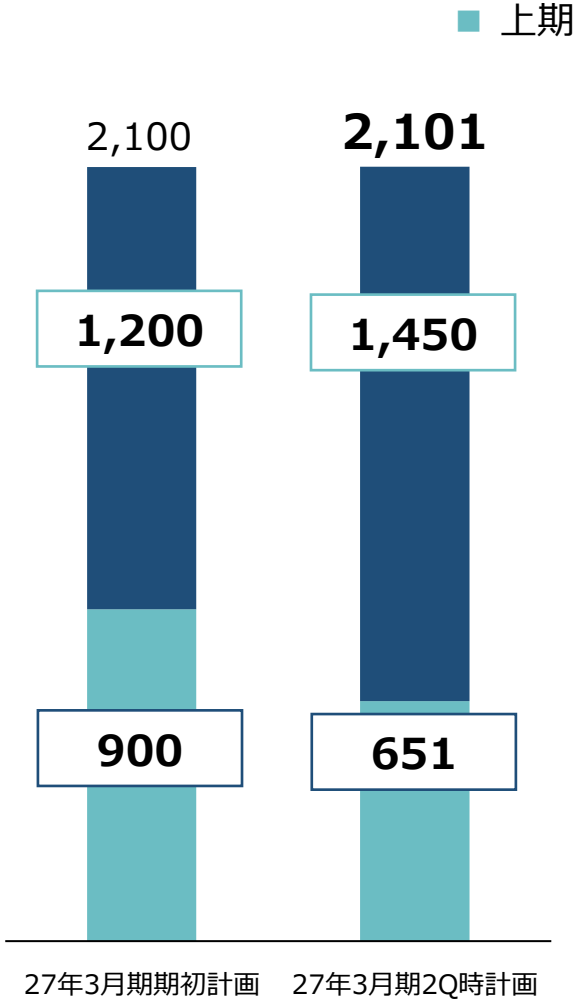
信頼と限りなき挑戦 Carlit

【売上高】



【営業利益】

（単位：百万円）



【Point】

販売面は計画どおりに進捗。利益目標の達成に向けては、「① 管理コスト(人件費)の吸収」、「② 電池試験の復調」「③ 電子材料の好調継続」の３つが焦点。

【分野別コメント】

化薬分野（発炎筒類、爆薬、煙火原料）

適正価格の反映は一巡。販売環境も堅調。変動要因はコスト面のみ。

受託評価分野（危険性評価試験、電池試験）

減価償却コストの負担は下期も継続。

EV関連ではない新規案件の獲得による試験所の稼働アップができるか否か。

化成品分野（塩素酸ナトリウム、過塩素酸アンモニウム等）

過塩素酸アンモニウムは期初需要計画のとおりに伸長する見通し。

塩素酸ナトリウムや他の化学製品の需要変動の影響がどれくらいになるかがポイント。

電子材料分野（導電性高分子、イオン液体等）

ハイエンドサーバー向け、自動車向けともに需要環境が継続するか否かがポイント。

セラミック材料分野（研削砥粒）

需要環境は底堅く、変動要因は小さい。

シリコンウェーハ分野（小口径シリコンウェーハ）

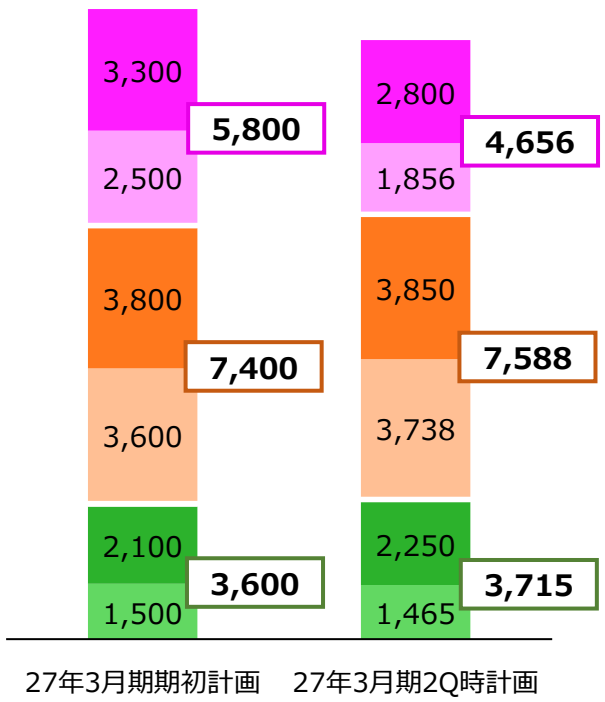
工場体制等、利益体質は改善済み。ウェーハ需要の高まりにあわせた小口径市場の盛り上がり次第。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

下期見通し　＜基盤領域セグメント＞

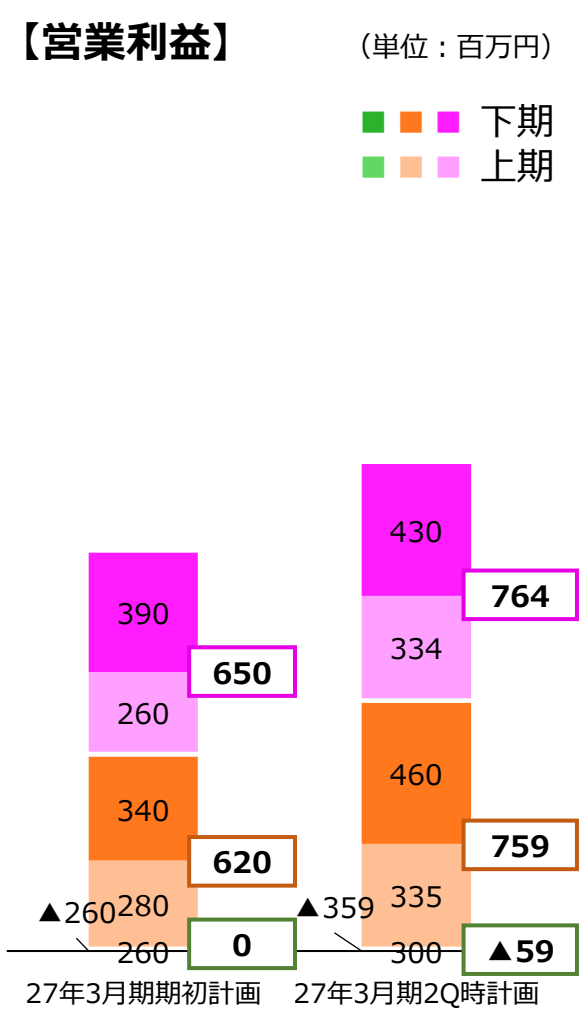
信頼と限りなき挑戦

【売上高】



【営業利益】

（単位：百万円）



【Point】

売上高はエンジSseg 建築関連の影響で減少。
利益目標に対しては、ボトリングSegの赤字見通しを他2セグメントでカバー。
いずれも販売市場は底堅く、上振れ下振れの変動は小さい想定。

【分野別コメント】

■ ボトリングセグメント

PET飲料製造ラインの更新工事は予定どおり12月まで継続し、1月から稼働開始。
2Qはそれに加え、飲料需要の低迷やエネルギーコストアップの影響を受けた。
下期も挽回に向けるが、生産能力の限度もあり、▲59百万円の赤字見通しに変更。
計画どおり、来期（2028年3月期）以降は業績回復する想定。

■ 金属加工セグメント

耐熱炉内用金物分野、金属スプリング・プレス品分野の双方とも、引き続き堅調に推移。
顧客需要の大きな変動はなく、期初対比増益と計画。

■ エンジニアリングサービスセグメント

建築・設備分野については引き続き販売環境が厳しく、売上減少の要因となる想定。
塗料・塗装分野、構造設計分野については引き続き堅調に推移し、期初対比増益と計画。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙防衛事業の将来構想（5月発表資料）

信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ 安定した過塩素酸アンモニウム（AP）供給基盤を核に、
固体推進薬の量産化と周辺領域拡張を進め、2030年代の中核成長事業へ育成

2025-2027

外部環境の変化

- 防衛力整備計画
- 防衛装備移転三原則の運用指針改正（5類型の撤廃）
- 宇宙ビジネスの拡大

基盤確立

- AP増産投資の第一段階完遂、2027年度全面操業へ
  → 2023年度比２～３倍の供給能力体制を構築
- **宇宙開発・防衛用途向けの戦略的事業開発に着手**
  → さらなる設備・新工場投資、事業開発用地の取得など

2028-2030

量産立ち上げ

- 防衛用固体推進薬新工場を稼働し、本格量産へ移行
- 防衛用途向け量産開始、宇宙用途は本格市場参入へ展開
- 搭載機種ラインナップ拡充、採用機種拡大を推進

2030-2035

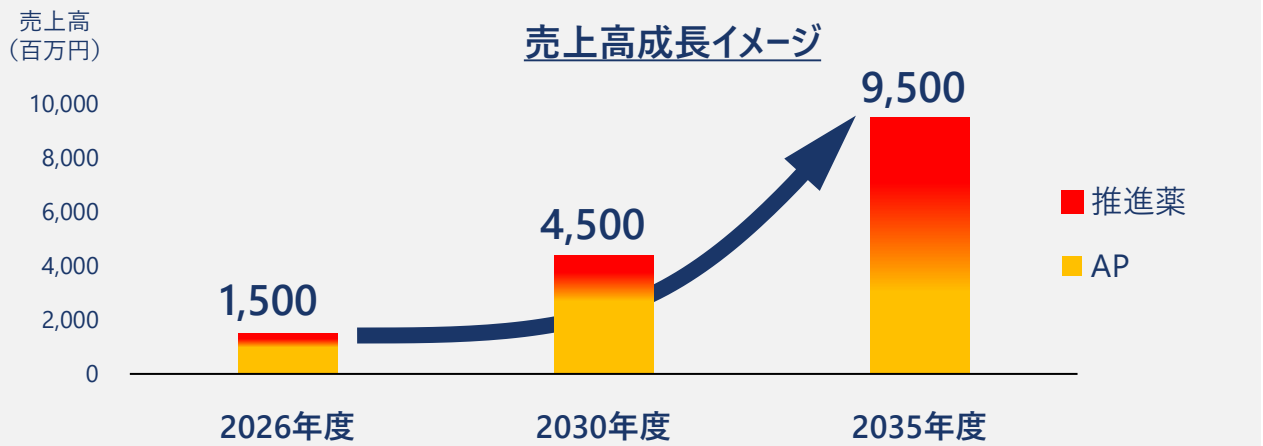
領域拡張・高収益化

- オリジナル推進薬の開発
- 新規防衛アイテム、関連部材・委託業務へ拡張
- 原料供給から一貫価値提供事業へ進化

Memo：カーリットの優位性

- 一貫生産体制による安定したAP供給基盤
- 長年培った火薬類と危険物の取扱ノウハウ（火薬類や毒劇物への法令遵守製造設備）
- 原料から推進薬、周辺領域までを一貫して取り扱うことによる高い事業拡張性

売上高成長イメージ



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

過塩素酸アンモニウム生産の現状と今後

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

過塩素酸アンモニウム(ＡＰ)の製造プロセスと完成設備の様子

信頼と限りなき挑戦 Carlit

【製造プロセス】

1）電解工程

塩素酸ナトリウムを電気分解、電解酸化する

強み：① 自社で水力発電所を保有（広桃発電所）
② 電解用の電極を自社で製造

塩素酸ナトリウム
→過塩素酸ナトリウム

2）複分解･晶出工程

過塩素酸ナトリウムから過塩素酸アンモニウムを生成、晶出する

強み：粒形、粒度の精密なコントロール

過塩素酸ナトリウム
→過塩素酸アンモニウム

3）乾燥工程

晶出させた過塩素酸アンモニウムを乾燥させる

強み：結晶を破砕しない乾燥工程

4）後処理工程

乾燥後の過塩素酸アンモニウムをふるい分け、粒度等の品質を調整

強み：粒形、粒度の精密なコントロール

過塩素酸アンモニウム(ＡＰ)製品が完成



塩素酸ナトリウムを電解酸化する電解槽を増設。
過塩素酸ナトリウムの生産能力を増強。

電解工程増設状況(Step3 工事中)



晶出させた過塩素酸アンモニウムを乾燥する乾燥機を増設。

乾燥工程増設状況(Step2 完成後）

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

ＡＰ投資計画の進捗と今後

信 頼 と 限 り な き 挑 戦
Carlit

設備分類	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
電解工程設備	増産投資（3期工事） 金額：約15億円		3 stepにわたる増産投資が完工。 最大生産能力('23年比)の**2~3倍。**				
複分解･晶出工程設備					**第２複分解工場 新設投資** **金額：30億円～検討中** 設計期間 / 工事期間		
乾燥工程設備	増産投資（2期工事） 金額：約5億円				NEW!! 現在、投資内容を検証中。 2028年度までに設計。2029年度から工事開始予定。 2031年度中の操業開始を目指す		
後処理工程設備	増産投資（2期工事） 金額：約5億円		**老朽化対策投資** **金額：約20~25億円**		混合･粉砕工場の老朽化対策 2029年度下期から操業開始予定		



過塩素酸アンモニウム
製造中外観写真

Memo

- ３StepにわたるAPの増産投資は2027年度から設備稼働を開始。
- さらなる安定供給体制の確立を目的とし、混合･粉砕工場の老朽化対策工事をスタート。
- さらに、過塩素酸ナトリウムを過塩素酸アンモニウムにする「複分解」工程の第２工場の新設を検討中。設備や工事内容が決定し次第、設計に着手する想定。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

宇宙・防衛固体推進薬の現状と今後

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

コンポジット固体推進薬について

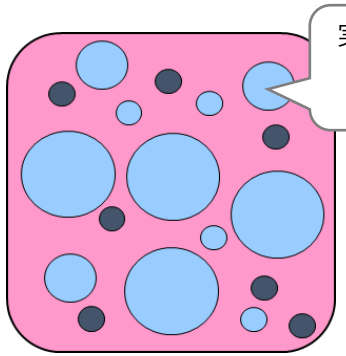
信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ **コンポジット固体推進薬**： カーリットが製造する過塩素酸アンモニウム（AP）を主成分とする固体推進薬

バインダ：燃焼によりガスを発生して燃料となる樹脂
（成分構成 約10%）（BD）

酸化剤：燃焼に必要な酸素を供給するAP
（成分構成 約70%）（AP）

金属燃料：燃焼温度を向上させるアルミニウム粒子
（成分構成 約20%）（Al）



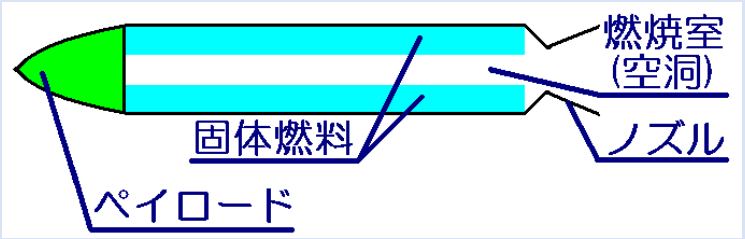
コンポジット推進薬 模式図


コンポジット推進薬
試験品外観

火薬類取締法で規定される火薬類に該当

→ 技術、法令、設備等の製造ハードルが高い

◆ **固体燃料ロケット**： コンポジット固体推進薬をモーターケースに充填し、その燃焼により得た推力で飛翔するロケット

構造	メリット	デメリット
	• 構造が簡素で信頼性が高く安価 • 小型のものにおいて構造効率が良い • **即応性に優れる** **（何かあったらすぐに打てる** **→誘導弾に適している）**	• 推力調整が困難 • 再点火不可 • 大型のものにおいて構造効率が悪い
実用例：H3ロケット固体ロケットブースタ、イプシロンロケット、カイロスロケット、観測ロケット、防衛用ロケット（誘導弾）		


固体推進薬の燃焼試験の様子

参考・引用：NASA HP、JAXA・宇宙情報センター HP、「トコトンやさしい宇宙ロケットの本」日刊工業新聞社　他

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙ロケット用固体推進薬の市場環境

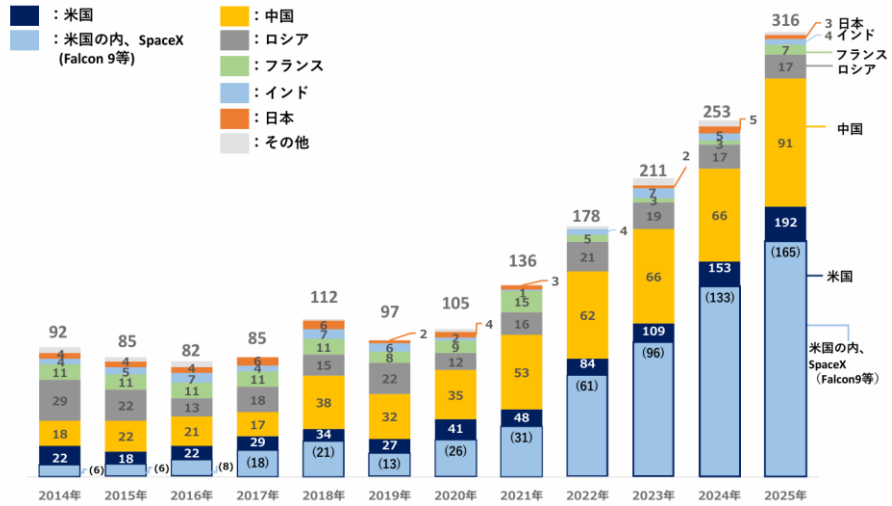
宇宙ロケット、人工衛星輸送の現状

1. 2025年に打ち上げられたロケット数は過去最高を更新
   2024年：253回　→　2025年：316回
2. 2025年に軌道上に打ち上げられた人工衛星等の機数は4,517機。
   過去10年間で約20倍に増加。増加の中心を占めるのは米国であり、
   そのうちStarlinkは2019年～2025年の7年間で10,677機を打上げ。
3. 国内外で衛星コンステレーション構築計画が進んでおり、
   衛星打上げニーズは今後も増加するものと見込まれる。
4. 国内ロケットの国際的な競争力を確保し、国内需要に対応するほか、
   海外需要を獲得することも重要。

2030年頃

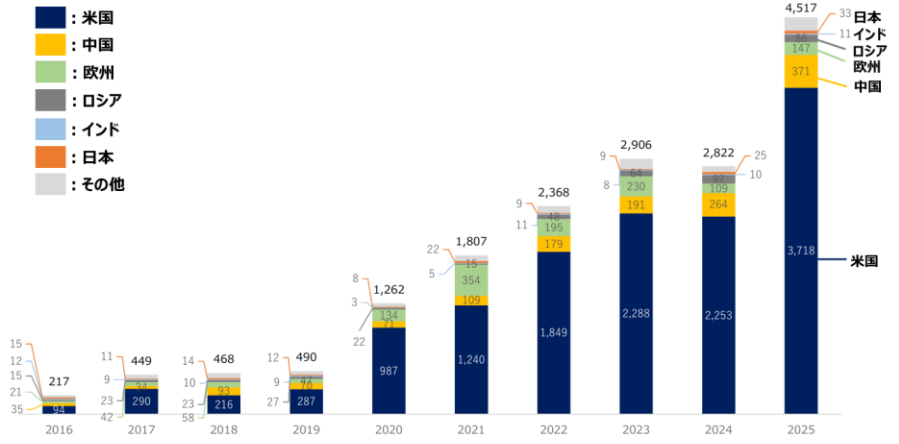
国内衛星の必要ロケット打ち上げ数
年間少なくとも30回程度
＋
海外衛星の国内打ち上げ需要
年間＋α回

ロケット打ち上げ数の推移



内閣府宇宙開発戦略推進事務局の調べ（軌道投入用ロケットの打上げ成功のみカウント）

人工衛星等の打ち上げ数の推移



JAXA情報及び報道発表資料に基づき内閣府が作成。打上げ数の中に打上げ失敗と軌道投入失敗は含んでいない。

上記いずれも「宇宙政策基礎資料　内閣府宇宙開発戦略推進事務局 2026年9月」より引用

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙ロケット用固体推進薬の開発状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit

国内衛星の必要ロケット打ち上げ数

年間少なくとも30回程度

＋

海外衛星の国内打ち上げ需要

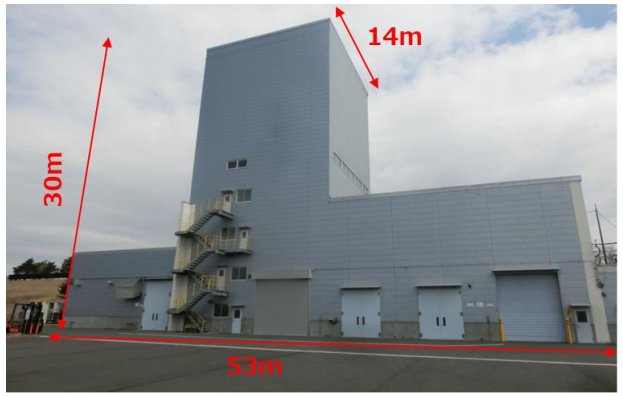
年間＋α回

- 当社では、スペースワン株式会社「カイロスロケット」の固体燃料モータを製造。
- 2030年にカイロスロケットも年間10回以上の打ち上げを想定しており、それにあわせた**年間10本分以上の固体推進薬の製造能力の実現を検討中。** NEW!!

  現在試験製造を行っているパイロットプラントに加え、**新たな工場施設の拡充や量産体制構築（工場用地取得、製造設備、検査設備、倉庫施設等）について試算や検討を進めている。** NEW!!
- 民間ロケットに加え、官需ロケットの開発検討も進めていく。



赤城工場 全体図



コンポジット固体推進薬製造パイロットプラント

最大製造数量：15,000kg

所有設備　：大型ミキサ、大型真空槽（φ3.5m×L10m）、30t天井クレーン

製造実績　：宇宙・防衛用ロケットに搭載する固体推進薬をフルサイズで製造。

現在もフルサイズ品の製造は可能だが、年間10本以上の量産は不可能。

→ **2030年に向け、新たな製造プラントが必要**

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

防衛ロケット用固体推進薬の市場環境

防衛ロケットの現状

1. 防衛省から令和9年度予算の概算要求が発表。
   約8兆8千億円以上となり、令和8年度当初予算を上回る水準。

2. 重視される３本柱として、①「新しい戦い方」への対応、②持続的対応能力の強化、③防衛力の基盤強化が打ち出された。

3. 防衛ロケットが使われる「スタンド・オフ」や「統合防空ミサイル防衛」については、『①「新しい戦い方」への対応』に記載され、強化を予定。
   また『②持続的な対応能力』にも防衛ロケットと関連する記載がある。

防衛予算・防衛費の増額にともない、
防衛用固体推進薬の市場も拡大していく見通し

- 現在、赤城工場にて防衛用推進薬製造設備・倉庫の建設工事中。
  （開示済み情報）
- 追加の設備投資は決定していないが、複数案件の開発に着手中。
  搭載機種ラインナップの拡充や新規防衛アイテム、関連部材など、さまざまな価値提供ができる事業を目指して検討を進めている。

令和9年度概算要求のポイントから抜粋





「防衛力の変革に向けた予算 令和9年度概算要求の概要 防衛省」より引用

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

防衛ロケット用固体推進薬の工事進捗

信頼と限りなき挑戦 Carlit

防衛用推進薬製造設備の投資進捗

1. 2028年度完工・製造開始に向け、設備投資をスタート。
   赤城工場敷地内に、防衛用固体推進薬を製造する新工場を建設。

   → **完工が2027年度中に前倒しとなる予定。** NEW!!

2. 2025年12月現在、土地の造成作業や設備設計などに着手。

   → 2026年11月現在、土地造成はほぼ完了。工場建屋の建設工事が進捗中。

3. 設備投資の完成にあわせ、投資費用に関連する収益を計上予定。

   → **予定どおり、投資費用全額分の収益を計上予定。** NEW!!
   完工が2027年度に前倒しになったことにともない、
   P/Lへの収益計上が前倒しになる。（検収時期等について調整中）

【 工場概要 】
場　　所：㈱カーリット赤城工場内
製造対象：防衛用関連製品
製造開始：2028年度から
新設設備：製造設備ならびに建屋、倉庫施設
金　　額：74億円（初度費にて充当）



赤城工場正門

固体推進薬は火薬類取締法で規定される「火薬類」に該当。
発炎筒や爆薬の製造を行っている赤城工場にて開発、設備投資を進めている。
（設備工事外観については秘密保持の観点から掲載不可）





固体推進薬保管火薬庫

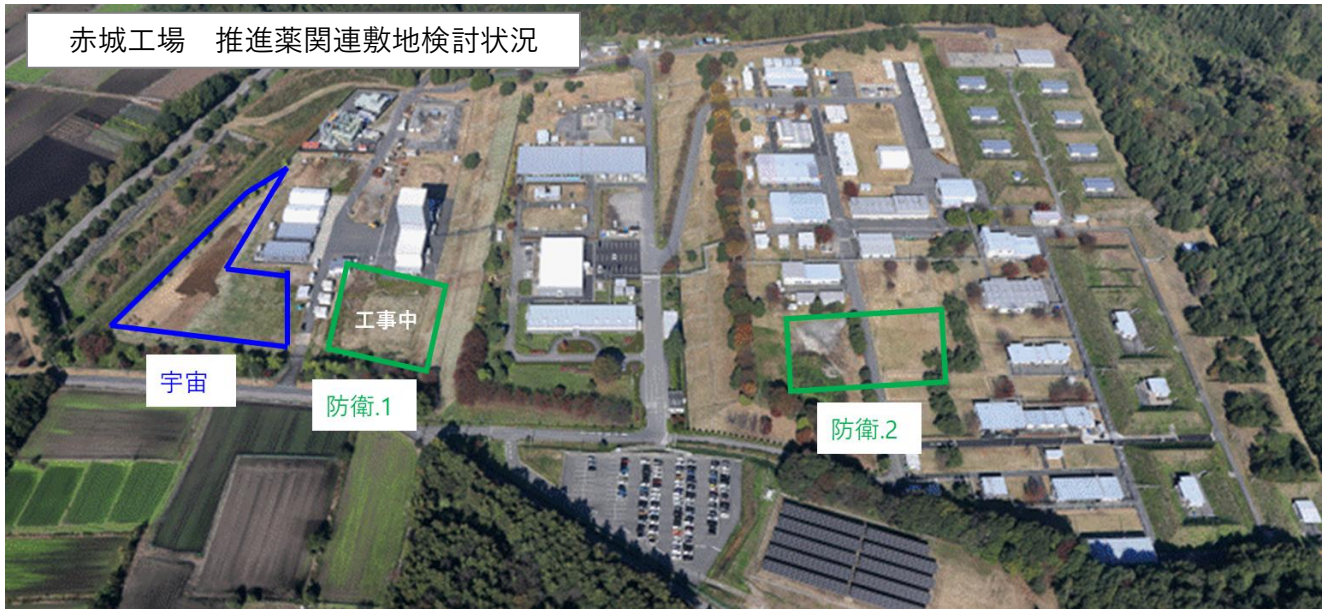
宇宙・防衛ロケット用の固体推進薬を保管する火薬庫。（2019年に完成し、既に運用中）
他の火薬庫と比べ、非常に大型であり、大型トラックへの積み込みも可能なよう広い面積が確保されている。

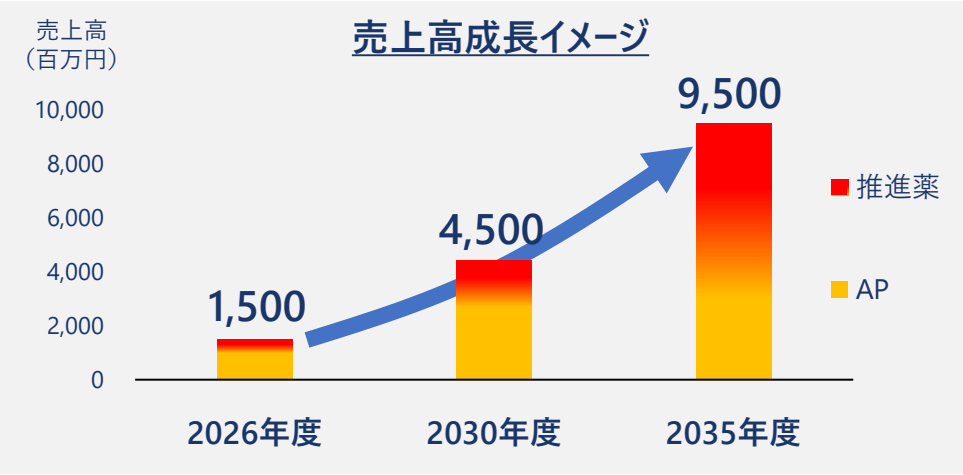
©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

信頼と限りなき挑戦 Carlit

	AP（群馬工場にて生産）	固体推進薬（赤城工場にて生産）
宇宙用ロケット	• 増強後も安定供給に向けた設備投資を継続。 • 国内オンリーワンメーカーとして安定供給を確保。国内需要に応えていく。 • 自社の固体推進薬向けの原料としても生産していく。	• カイロスロケット向け推進薬の量産（10本打ち上げ体制）に向けた新設備を検討中。
防衛用ロケット		• 推進薬新工場を建設中。（右写真「防衛.1」） • 別案件に対応できるよう、「防衛.2」についても敷地を確保。（右写真「防衛.2」）





売上高成長イメージは、各案件の具体的な交渉状況や製造実績からシミュレーションの精度を高めつつ、見直しを進める想定。

→ 現時点では2030年、2035年の想定は据え置き。
今後も状況については積極的に開示を進めていく。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q. • 2030年以降の成長ビジョンの見直しについて、検討中とのご説明ですが2028年4月からの次期中期経営計画の発表までに、何か情報はないのでしょうか。
新計画を早く開示いただける可能性もありそうでしょうか。

A. • 成長ビジョンの見直しについて、ご期待いただいている中、お待たせしてしまい失礼しております。

- 昨今の外部環境の激しい変動に加え、今回ご説明した固体推進薬をはじめとしたさまざまな開発案件が進行していることから、成長ビジョンの具体的な数値についてはお示しを控えている状況です。

- 我々としても一刻も早く皆さまにお伝えしてご期待に応えたいところであり、
ありたい姿の高度化や、業績シミュレーション等の準備を進めています。

- 具体的なスケジュールをお伝えできず恐れ入りますが、もう少しお待ちくださいますよう、
よろしくお願いいたします。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 今期予想の化学品セグメント営業利益では、2Q未達分も含めて前年比で+500百万円の予想となっています。過塩素酸アンモニウムの需要計画は大きな変動は無いとのことで、予想達成のための成長ドライバーのメインは何の分野でしょうか。

A.
- 過塩素酸アンモニウムについては期初計画の段階で、需要や単価の上昇を想定していたため、前年対比といたしましては、成長ドライバーのひとつとなっています。
- また電子材料分野についても、昨年4Qから続くハイエンドサーバー向けの高分子系材料の需要を想定しており、実際、中間期までの販売状況は良好です。こちらも前年対比の増収増益に寄与しています。
- 上半期、特に第１四半期は原燃料コストの高騰影響や、管理コストの上昇の影響を受けていますが、下半期は、これまで進めてきた改善の効果が表れることを想定しています。
- 下半期についても、価格のさらなる見直しやコスト削減の取り組みを継続し、通期目標の達成に向けて邁進してまいります。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 貴社は10月にTOPIXの移行措置銘柄となっています。この状況について、金子社長はどのようにお考えでしょうか。また、2028年7月の第二段階の見直し完了に向けて、どのような施策を検討していますか？

A.
- TOPIXについてはひとつの重要な指標と捉えており、当社の市場価値が十分でなかったことを強く反省しております。
- 移行期間の完了に向けての施策でありますが、いわゆる「株価対策」を行うというよりも、本日お話したような当社の成長性について、もっと投資家の皆さまにお伝えするとともに、その成長をひとつひとつ実現していくことこそが重要だと考えています。
- まず、中計最終年度である来期営業利益目標 42億円の達成を実現することで、当社の成長ストーリーの信ぴょう性を高めるとともに、将来のさらなる成長をお示しすることで、皆さまの期待を高められればと思っています。
- もちろん、財務戦略やＩＲ強化による資本収益性の向上や資本コストの低減などの取り組みについても着実に進めることで、市場価値を高めていきたいと考えております。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信頼と限りなき挑戦

Carlit

Q.

- 以前開示されていた老朽化更新工事や、P20に記載されている複分解工程設備の投資について、これは増産になり得る設備投資でしょうか。増産に寄与する場合、どのくらいの業績影響がありそうでしょうか。
- APの第2複分解工場を新設する場合、AP生産能力は現在の何倍くらいになるとお考えでしょうか?ざっくりしたイメージで構いませんのでご共有いただけると幸いです。
- 2030年頃に年間30回程度の打ち上げになる場合、過塩素酸アンモニウムは現状のキャパシティで問題ないのでしょうか。複分解工程設備の投資は、2030年をターゲットにしているのでしょうか？

A.

- 混合・粉砕工場の老朽化対策工事や第２複分解工場は、これ単体では増産にはなりません。
他の工程の投資もあわさることで、増産することが可能になります。

- 今後、増産に向けては新たな投資を判断していく必要がありますが、工事期間や工程内容をふまえ、
優先順位を判断し、進めているところです。

- また、今回お示しした投資については、2030年頃の年間30回打ち上げをターゲットにしていますが、
主には「安定供給」をテーマにしているものです。
今後、年間30回打ち上げに向けたさらなる設備投資についても、
外部環境情報やお取引先の情報などを総合的に勘案し、検討してまいります。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 2030年に向けては、年間10本以上の固体燃料を製造するために新たな製造プラントが必要とのことですが、その設備投資についても防衛関連予算が期待できますか。
- APの第2複分解工場についても防衛関連予算のような支援を得られる可能性があるのか教えてください。
- 固体推進薬の新たな製造プラントの土地は、群馬県の貴社工場の近隣で検討しているのでしょうか。
- 宇宙ロケット計画にもとづく年間10本分のカイロスロケットに対応する投資は、赤城工場上空図の青枠内に対応するものでしょうか。年間10本以上の量産に向けた新たな製造プラントは赤城工場とは別、という理解であっていますでしょうか。

A.
- 宇宙ロケットの年間10本体制構築にかかる固体推進薬製造設備は、防衛関連設備ではありませんので、防衛関連予算が適用される予定はありません。
そのため、外部環境や需要情報を見極めながら投資検討を進めているところです。

- 固体推進薬の製造工場は、赤城工場内の土地をまずは想定していますが、
将来的にさらなる工場用地の取得が必要になる可能性は高いと考えています。

- 開発人員や製造人員の連携がスムーズに取れるよう、赤城工場の近隣が望ましいと考えていますが、
火薬類製造を行うという厳しい条件を満たすことの方が優先順位としては高いため、
柔軟な発想で幅広に検討を進めているところです。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 固体推進薬はカイロスロケットの成功と連動するのでしょうか。もしなかなか成功しない場合、工場建設はどのように進捗していくことになるのでしょうか?
- P27の赤城工場についている緑枠の「防衛２」というのは何の開発案件に対応するものでしょうか。

A.
- カイロスロケットの成功とは、全く連動関係がないわけではございませんが、お取引先との開発状況に応じて調整しながら進めるものとなりますので、必ずしも連動するというわけでもございません。
- P27に記載の「防衛2」の案件につきましては、お取引先との秘密保持契約の観点から具体的なお話はできかねます。詳細が決まり、皆さまにお伝えが可能になりましたら開示いたします。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信頼と限りなき挑戦

Carlit

Q.
- 赤城工場敷地内の、防衛用固体推進薬を製造する新工場は、完工が2027年度中に前倒しとなる予定ということですが、これによって売上高成長イメージはさらに上方修正になりそうでしょうか。

A.
- 防衛用固体推進薬を製造する新工場は、もとは2028年度に完成予定でありましたため、計画が前倒しになれば、売上高にも前倒しで計上されることが考えられます。
一方で、現時点では未確定なことが多い状況となため、確定次第皆さまに開示させていただきます。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 固体推進薬については、宇宙・防衛関連分野でそれぞれでこれまで発表されている案件以外で新規の投資を検討されているという理解でよろしいでしょうか。
- 宇宙用途はP24の記載から2030年ごろの完成予定と理解しておりますが、「防衛２」の完工予定はいつ頃になりますでしょうか。

A.
- 固体推進薬については、現在進行中の開発案件とは別の案件も含め、仰るとおり新規に検討中の状況となります。
- P27の「防衛2」の件につきましては、繰り返しとなり恐れ入りますが、現在先方との協議中のため、この場でのご回答は差し控えさせていただきます。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q.
- 化学品セグメントの上期利益は未達でありましたが、未達となった分野は電池試験のみという理解でよろしいでしょうか。
- 化学品セグメントの下期利益の計画はチャレンジングなように思いますが、管理コストを吸収するためにさらなる価格改定はお考えでしょうか。また、現時点で電池試験に復調の兆しは見られていますでしょうか。

A.
- 前年対比での未達部門は、P11にてお示ししておりますとおり電池試験を含む受託評価分野のみの影響となります。EV開発の減速影響を受けているような状況となりますため、AIサーバー向けなどの新たな需要を確保し、復調を狙いたい考えです。
- 価格改定につきましては、受注済みの案件は価格の改定を行うものの、新規案件については、価格反映をした状態での販売に努めてまいります。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q. ・ ボトリングセグメントの上期利益を下押ししたエネルギーコストに関して、具体的にどのような性質のエネルギーコストが期初想定より増加したのか。また、このコスト増加分に対する価格転嫁の状況について教えてください。

A. ・ エネルギーコストにつきましては、電気とガスが主なコスト増要因となります。
価格改定については、ブランドメーカーとの交渉につき営業努力を鋭意進めてまいります。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

質疑応答

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

Q. ・ 宇宙ロケット用固体推進薬と防衛ロケット用固体推進薬について、
現在の生産能力はどのくらいでしょうか。

A. ・ 現在はどちらもパイロットプラントでのみ製造中となります。具体的な製造能力については、
取引先との秘密保持の観点から回答は差し控えさせていただきます。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

株式会社カーリット

無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

本資料に記載されているカーリットグループの業績見通しの将来に関する記述は、当社が現時点において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと大きく異なることがあり得ます

尚、業績等に影響を及ぼす可能性がある要因の内、主なものは以下の通りですが、新たな要因が発生する可能性もございます

① 世界の経済状況・社会情勢及び規制や税制等各種法規の動向
② 為替相場
③ 株式相場
④ 製品需給状況及び部材調達環境
⑤ 資金調達環境
⑥ 重要な特許の成立及び実施許諾並びに特許関連の係争等
⑦ 環境に関連する規制や問題
⑧ 製品やサービスの欠陥や瑕疵等
⑨ 訴訟その他の法的手続き
⑩ 急激な技術変化や、新技術を用いた製品の開発、製造及び市場投入時期
⑪ 事業構造改革
⑫ 情報セキュリティ
⑬ 大規模災害
⑭ テロ・戦争、感染症流行等による社会的・政治的混乱
⑮ 当社役員・大株主・関係会社等に関する重要事項説

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.